

第4部 推進体制の整備

1 計画推進のための考え方

子どもたちの自主的な読書活動を着実に推進するためには、保護者などの子どもに関わる大人や文庫活動や読み聞かせ活動を行うボランティア団体などと、学校・図書館をはじめとする関係行政機関が連携・協力して行動することが最も重要なことです。市民・ボランティア団体と行政機関がそれぞれの役割と責任を認め合い、パートナーシップを深めながら、知恵や力を合わせ、それぞれの持つ長所や資源を生かしてともに行動する「共働」の視点での取り組みが必要となるのです。

また、家庭・地域・学校などのさまざまな分野で取り込まれる子ども読書活動推進計画の進捗状況を常に把握し、検証していくことも大切であり、これらを行う推進体制を整備する必要もあります。

このため、市民やボランティア団体などと学校・図書館などの関係行政機関との共働を推進するとともに、子ども読書活動推進計画の推進体制づくりを進めます。

2 福岡市子ども読書活動推進会議の設置

子ども読書活動推進計画の進捗状況の把握と検証、円滑な読書活動の推進に向けた検討を行うため、学校・図書館などの関係機関からなる「福岡市子ども読書活動推進会議」を設置し、定期的に会議を実施します。

同会議では、家庭・地域・学校など子どもの読書活動を推進する場での実状を知り、市民などの意見の把握等に努めることで課題を共有し、課題の解決に向けた協議を行っていきます（第5部 施策一覧（目標）39ページ参照）。

3 ボランティア団体などとの共働

子どもの読書活動推進のために、ボランティア団体の活動は重要な役割を果たしています。

第3部の役割と現状のなかにも見られるように、公民館、学校、図書館などのさまざまな場で、多くのボランティアが活躍し、子どもと本の出会いの場を作っています。ボランティアの活動はきめ細かく、その形態もさまざまであり、一人ひとりの活動者が熱意を持って活動に取り組んでいます。

今後、ボランティア団体との連携・協力を密にするとともに、地域文庫や読み聞かせボランティアの育成や活動支援に積極的に取り組むなど、さらに支援を強化し、市民と行政の共働を強めていきます。

あわせて、都市圏大学や市内書店などの民間団体にも、子どもの読書活動推進の重要性を伝えつつ、連携・協力を進めていきます。